

# 文化財レスキュー活動を通じて得られた画像の整理の試み —Wordpress による画像データベース構築—

今石みぎわ、江村知子、岡田健、小山田智寛、菊池理予、久保田裕道、皿井舞、内藤百合子、二神葉子、森井順之、山梨絵美子（東京文化財研究所）、  
田良島哲（東京国立博物館）、村井源（東京工業大学）

## はじめに

文化財レスキュー活動の記録には作業日報のほか、活動の際に撮ったさまざまな画像がある。画像にはその時々々の作業の様子や被災した文化財等の状況が記録されており、活動の具体像を示す貴重な資料となり、広報の手段としても重要であるといえる。

しかし、その利用に際しては、画像そのものは文字による検索を行うことができないため、利用したい画像を探し当てるためには、画像をサムネールの一覧で表示させるなどして確認する必要がある、利用の際にはしばしば困難を生じていた。

そこで、画像に文字情報を与えて検索可能な状態にすること、また、文字による活動の記録である日報との連携を図ることを目的として、文化財レスキュー活動に関連した画像のデータベースを構築する試みを行ったので報告する。

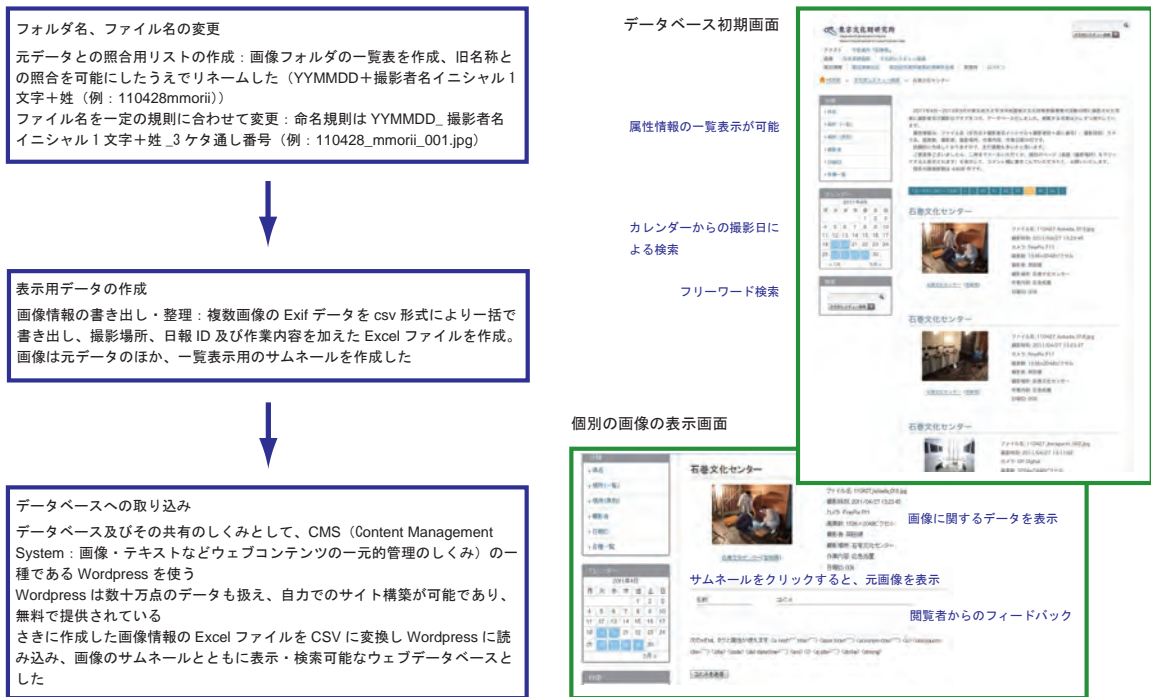
## 画像の取得

東京文化財研究所では、文化財レスキュー活動に参加して現地で画像を撮影してきた職員（一部は構成団体等の他機関所属の参加者）に対して、それらの画像の提供を依頼していた。その際には、撮影者名（及び撮影日時）をつけたフォルダをNASサーバ上に作成し、画像を入れるよう求めた。画像に付加される情報は多いに越したことはなく、撮影場所や活動内容なども記されていれば検索には便利であるが、要望が多すぎると画像自体が集まらなくなることが懸念された。そのため、新たに付け加える情報は撮影者名のみとした。これは、多忙なレスキュー活動参加者でも特に検討の労力を割くことなく自然に実行可能な最小限の作業は、画像を保存するフォルダに自分の名前をつけることではないかと考えたこと、撮影時に自動的に記録される撮影日時のほか、撮影者の情報があれば、日報と関連付けることが可能であり、それ以外に必要な活動場所や活動内容の情報は日報から読み取ることができると考えたためである。

## 画像の整理

このようにして収集した画像について、日付や活動場所、撮影者などにより検索可能な状態にし、日報との連携を図ることを目的として整理を行った。具体的には、画像に活動場所や撮影者の情報を付加するとともに、画像の情報を書き出しデータベース化、そのデータベースを必要な範囲で検索・共有できるようにする、というものである。データベース上での表示の際にのみ上記のような情報を表示させる方法もありうるが、画像のみが配布された際にも、少なくとも撮影者と撮影場所の情報は付随するように、画像ファイル自体にも情報を持たせたいと考えた。

文化財レスキュー関連活動を撮影した画像は20,000件を超えており、データ処理やデータベース構築を外注した場合、新たに数百万円~数千円の出支を見込まなければならず、作業を行いながらの細かな修正も困難である。そこで、画像の処理については、機能は少ないものの、複数組み合わせることで、後述するような処理を複数ファイルに対して行うことのできるフリーソフトウェアを利用し、またデータベースに関しても、所内のスタッフで扱うことのできるシステムを選ぶことで、別途の費用支出を極力抑制するようにした。



## まとめ

文化財レスキュー活動を通じて撮影された画像について、画像の属性情報とともに表示・検索するデータベースの構築を試みた。このことで、撮影日時、撮影場所、撮影者及び日報IDでの検索が可能となった。

このデータベースはウェブ上で動作し、パスワードでのアクセス制限も可能であるため、閲覧者を制限した上での遠隔地との情報共有も可能となる。また、ユーザによるコメントの書き込みも可能であることから、いったん公開したうえで各地の閲覧者からの意見を受けてのデータの改訂や追加、さらには新たなデータ項目の追加もできるので、今後、東京文化財研究所のインターネット公開用サーバ上にデータベースを展開し、関係者からのフィードバックを得て改善していきたい。